

地理的優位性と総合特区を礎に、グローバルに飛躍するまちを目指して欲しい。

—— 福岡経済同友会 代表幹事 石原進氏



石原 進(いしはら すすむ)

東京都出身。1969年、東京大学法学部卒業。同年、日本国有鉄道に入社。1993年、九州旅客鉄道取締役。2002年、同代表取締役社長。2009年、同代表取締役会長に就任。

九州経済同友会代表委員、福岡経済同友会代表幹事、NHK 経営委員会委員等要職を歴任。

恵まれた条件を活かしたまちづくりで奏功

福岡は大陸に近いという地の利に恵まれ、古くから海運・貿易で発展してきました。謝国明などの貿易商人の活躍にみられるように、福岡には諸外国との交流のなかで外国人を受け入れてきた歴史があり、今もその気質は脈々と受け継がれています。私は東京から福岡に来ましたが、外から来た人を大切に扱い、意見を尊重しながら自由に活躍の場を与えてくれる、そうした気質のお陰で、随分助けられました。

また、博多湾という船舶を迎えるのに最適の地形を有していたこともあり、港が整備され、空港、新幹線、高速道路等の整備が進み、交通の要所として発達してきました。大陸に近く、交通に恵まれているということは、これからの福岡市の発展戦略を考える際にも大事なポイントになると思います。

まちづくりにも上手に取り組んできたのではないのでしょうか。県庁の移転や西鉄大牟田線の高架などで天神のまちがコアとなって福岡は発展してきました。博多駅も整備が進み、両地区の間にはキャナルシティが整備され、天神・博多駅を中心として約2kmの範囲にコンパ

クトに都市機能が集積しています。そして、よかトピア後の百道地区の開発は、大きな成果を挙げたプロジェクトであり、確固たる税収基盤を築くことができました。今後は、博多駅郵便局周辺の再開発が重要ですし、博多ふ頭・中央ふ頭の再開発と都心との連携強化が求められます。また、アイランドシティにおける港湾機能の拡充も必要です。

それから、文化関係では博多座・アクロス福岡、マリンメッセ福岡をはじめ、ホールや展示場施設が充実していますし、博多祇園山笠を始めとする市民生活に根付いた祭りが残されており、博多区の御供所町には歴史のある寺社が多数所在しています。このようにみると福岡は文化の面でも蓄積に恵まれています。また、九州大学をはじめとする多数の大学が集積していることは福岡の特徴で、そのため若者が多く、福岡の活力の源となっています。

以上のように、都市機能がコンパクトにまとまっていますので利便性が高く、都市と豊かな自然が共生し両方をセットで身近に楽しめるまちです。美味しい食もあります。これからの都市は暮らしやすくなければ、内外から人は集

まりません。福岡の暮らしやすさは他の都市と比較してかなり高い水準にあると思います。恵まれた条件を活かし、福岡はこれまでの取り組みを今後も継続して総合的に進めていくことが重要だと思います。

求められるアジアでのビジネス展開

今後、人口の減少により国内市場の縮小が予想されます。福岡が発展するためには、グローバルなビジネスに活発に取り組むことが求められています。

例えば、香港では、一年間で中国本土から2300万人の観光客を受け入れており、金融や不動産が好調で経済は成長を続けています。そして、消費税も関税も免除しているのに、想定以上に税収が確保できたため、2011年には一定の資格を有する外国人を含めた18歳以上の全ての市民に6,000香港ドルを支給したと聞きます。福岡は、こうした活力に満ちあふれるアジアのパワーを取り込んでいかなければなりません。

例えば、香港の人達は、高くても日本の食品を購入してくれますので、一次産品・食品を積極的に輸出することが必要です。また、中小企業を含め、地場企業の経営者はアジアに積極的に出ていく必要があります。現地を訪れてダイナミックな動きを肌で感じ、現地に拠点をつくり、社員を現地に送り込みそこで鍛える。そしてビジネスチャンスをつかむことにチャレンジして欲しいものです。

不可欠なグローバル人材の育成

グローバル化への対応で重要なのは、人材の育成であり、そのためには教育は極めて大事です。グローバル人材とはどのような人材かと考えた場合、コミュニケーション能力が求められます。言葉はとても大切で、特に英会話の能力が必要ですし、論理的な思考のために、日本語

の能力が大事なことは言うまでもありません。

そして、読み書きそろばんといった基礎学力と、我が国の歴史や文化の素養をしっかりと身につけることも必要です。加えて、白を黒と言いくるめるくらいのディベート力やプレゼンテーション能力も欲しいところです。

グローバル化の時代に求められるこうした教育を、小学校の段階から取り入れる必要があります。シンガポールなどはそのような教育のあり方が徹底していて、参考になることも多いと思います。

また、インターナショナルスクールをもっと充実させることも必要でしょう。福岡には1校しかありませんが、神戸など国際的な都市には複数校あります。海外からの優秀な人材を集めるためには、居住環境とともに教育環境の整備が不可欠です。また、インターナショナルスクールにもっと日本人生徒が入りやすくする必要があります。そうすれば、生徒同士で国際的な交流と切磋琢磨も生まれ、グローバル人材育成の一助になると思います。

国際都市実現のためのハード・ソフトの整備

内外の若者が集まるような魅力的なまちになるためには、アニメや音楽、ファッションなどの要素も大事です。福岡アジアコレクションなどの取り組みは重要ですし、それに関連した大規模なコンベンションやイベントを誘致することも望まれます。

そうするとハードの整備も不可欠です。福岡にはマリンメッセ福岡などコンベンションやイベントホールが複数存在しますが、世界的にはもっと大規模な施設がいくつでもあります。福岡の現状を考えると大規模なコンベンション施設を整備するだけのマーケットがあるのか懸念されるところですが、施設ができれば稼働率を高めるために見本市等の誘致に向けた努力が行われ、マーケットも拡大することにな

るでしょう。

また、関連して福岡空港の拡張と国際路線の充実が不可欠です。空港間の国際競争が激化しているなかで、福岡空港が現状のままでいいはずはありません。福岡空港の滑走路増設を早急に実現しなければなりません。限られた予算を国全体で分け合い、滑走路増設に10年も15年もかかるような現在のやり方は見直しが必要です。

港湾でいえば、香港には世界最大の荷役会社が存在しています。船舶の停泊時間や積み替え時間をはじめ、トレーラーの出入りや積荷の重量バランスなどがコンピュータで管理されオートメーション化されていて、効率的に24時間フル稼働しています。日本の港湾は合理化・効率化が不十分です。国内の港湾同士の競争にとどまっていれば、それで良いかもしれませんが、海外との競争が今後ますます激化することを考えると、日本の港湾サービスの大幅な向上が必要です。

アイランドシティにはガントリークレーンが9基しかありませんが、釜山港には60基あり規模が全く違います。なぜ釜山港へ日本企業が行くのかといえば、コストが安いからに他なりません。例えば、アイランドシティに企業が立地するためには、土地の購入が必要ですが、購入するとなると企業のコスト負担が大きくなり過ぎます。行政が港湾部分を買取り、安価な賃料で進出企業に貸し出すことが必要ではないでしょうか。そして様々な企業がアイランドシティに進出し、組立や荷の積み替えを行うようにしなければなりません。

総合特区を梃子に思い切った施策を

人口700万人の香港は、ヒト、モノ、カネ、情報の集積拠点となることに専念しており、世界的な都市間競争のなかで、法人税を下げ、大規模な港湾や空港を整備し戦略的な企業・人材

の誘致を実現しています。シンガポールもそうです。どこも国際競争に打ち勝つため、戦略的に大胆な取り組みを行っています。IMD(国際経営開発協会)の国際競争力ランキングで、香港が17年連続で自由度1位の座を射止め、台湾も大幅にランキングを上げています。このままでは我が国は取り残される一方ではないでしょうか。

福岡が、これまで話してきたような思い切った施策に取り組むためには、国に頼るだけでは限界があります。地域のことは地域が責任を持って行い、戦略プロジェクトには大胆に資金を投入できるような制度が必要です。

道州制の導入が望まれるところですが、簡単には実現できそうにありません。こうしたなか、総合特区の構想が打ち出され、福岡県、福岡市、北九州市の3者が申請した「グリーンアジア国際戦略総合特区」が国から指定を受けました。福岡の総合特区は環境とアジアを柱に据えており、例えば、環境に関する世界的なコンベンションを誘致したり、航路・航空路を飛躍的に充実させるなど、思い切った施策が実現できるのではないかと期待しています。

インタビュー日:2011/12/13 文責:URC 栗原